

厚生労働行政推進調査事業費補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか育成総合研究事業）
災害に対応した母子保健サービス向上のための研究
分担研究報告書

メンタルヘルスの調査

研究分担者 村上 佳津美（堺咲花病院）
研究協力者 福地 成（みやぎ心のケアセンター）

研究要旨

災害時に子どもに対するメンタルケアのマニュアル作成のため、国内で発生した自然災害において子ども支援を展開する NGO 団体に対して、災害後にみられる子どもの心身の反応および専門医療との連携についてグループインタビューを実施した。

その結果災害時の心理的応急処置（Psychological First Aid：PFA）の重要性は理解されているが、十分に普及しているとは言えないこと。心理的デブリーフィングなど場合によっては有害となる手法がまだ存在していること。医療機関との連携においてはまだ十分ではないことなどが抽出された。この結果を踏まえ、PFA の重要性や、有害になる手法を禁止する内容、連携の具体的方法を入れた、災害時に子どもに対するメンタルケアマニュアルを作成したい。

A. 研究目的

災害時に子どもに対するメンタルケアが重要であることは言うまでもない。そのため子どもに対するメンタルケアのマニュアルが多数存在する。特に東日本大震災以降様々な団体から多数示されている。また対象も専門医向け、一般医向け、災害にかかわる医療従事者、また保育士、支援者、保護者向けなど多数ある。医師向けとして代表的なものは日本小児科学会、日本児童青年精神医学会、日本小児精神神経学会、日本小児科医会などが挙げられる。また教員向けには文部科学省が発行している。一般向けには様々な団体が様々な形で出している。これらのマニュアルは有用なものも多いが、問題点もいくつか挙げられる。第1にはこれらのマ

ニュアルはほとんどが専門家の経験からの指針であることである。すなわちこれらのエビデンスレベルはいずれも6となる。さらにこれらのマニュアルを使用しての検証が行われていない。よって災害時子どものこころのケアに対するマニュアルについては客観的評価が加えられたものは存在しない。第2の問題は災害時の現場における現状が関連している。災害現場においては、いまだに心理的デブリーフィングが良いものとして行われる実情がある。「心理的デブリーフィングは災害直後の数日から数週間後に行われる急性期介入であり、ストレス反応の悪化と PTSD を予防するための方法であると主張され、各国に広められたが、PTSD への予防効果は現在では否定されており、かえっ

て悪化する場合も報告されている。トラウマ的体験を話すように促し、トラウマ対処の心理教育を行うものだが、有害な刺激を与え、自然の回復過程を阻害する場合がある。」(災害時こころの情報センターホームページより)。すなわち効果が否定されさらに有害な可能性がある手法がいまだに良いものとして扱われている現状があり、それを指摘しているマニュアルが存在していない。また心理的応急処置 (Psychological First Aid : PFA) の重要性は明らかだが、まだまだ十分普及しているとは言えない。よって今回上記のような問題点を解決するようなマニュアルを作成することを目的とした。この目的のためには今までのマニュアルのエビデンスレベルアップを目的としたマニュアル使用調査が必要になるが、大規模な調査を、時間をかけて行う必要があるため、今回は他の方法を選択した。今回の方法としては国内で発生した自然災害において子ども支援を展開する NGO 団体に対して、災害後にみられる子どもの心身の反応および専門医療との連携についてアンケートとグループインタビューを実施し、現状と課題を整理し、現場からの声としてマニュアルに反映させる方法を展開することとした。

B. 研究方法

(ア) 取り組みに関する情報収集

日本各地において、子どもの遊び場を設置している NGO 団体から、よくみられる子どもの心身の反応および子ども医療との連携について情報収集を行う。

(イ) 調査候補団体および対象者の選定

調査対象とする取り組みを選定し、各事例の代表者やそれに代わる者に対して調査への協力依頼をする。各団体より対象者を推薦いただく。

(ウ) グループインタビュー：アンケート調査

をもとに、災害時の NGO 団体による支援でみられる子どもの心身の反応および専門医療との連携について詳細な聞き取りを行う。アンケート調査の結果をインタビューガイドとして、調査対象者に面接による聞き取りを行う。面接内容は IC レコーダーにより録音する。調査項目は 1) 活動内容の詳細について 2) 専門医療(小児科や児童精神科など)との連携について 3) 現場でみられる子どもの心身の反応について 4) 対応に困る事例について 5) 緊急時の「子どものあそび場」について 6) 子ども PFA (Psychological First Aid) についてなどである。

(エ) データ整理：面接で得られた音源データは逐語データに書き起こす。活動内容については、逐語データをもとに情報を整理する。また、KJ 法を用いて逐語データを分類し、現状の成果と課題を明らかにする。KH Coder などのソフトウェアを用いて量的解析は度数や割合の算出など、記述統計を行う

(対象)

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールドビジョン・ジャパン、プラン・インターナショナルの 3 団体を予定しているが、本年度は 1 団体のみに行った。

(倫理面への配慮)

1) 調査研究等の対象とする個人への人権への対策

事前の説明と同意を十分に実施する。また、同意するか否かに関しては個人の自由であり、判断によって不利益を被らないことを説明する。

2) 対象者を選ぶ方針・基準

日本国内の自然災害(地震、水害など)において、NGO 団体職員の活動として子ども支援に携わった経験がある者を対象とする。ただし、医療機関内での活動経験については除外する。

本調査への参加にかかる経済的負担はない。被験者の負担軽減費として対象者には 1000 円分のクオカードを提供する。

3) 個人情報の取り扱い

回収したアンケートは研究用 ID を用いて連結可能匿名化し、対照表と別にして鍵のかかった棚に保管する。面接調査で得た音源は逐語データに書き起こし、音源は破棄する。逐語データは各研究施設の鍵のかかった棚に保管する。

4) 対象者に理解を求め同意を得る方法

対象者各人に書面・口頭で説明し各人の同意の署名が記入された調査票を保管する

C. 研究結果

1. インタビュー対象

性別	年	資格	担当部署	経験年
女性	44	保育士	マネージャー代行	7年
男性	38	なし	国内事業部	9年
女性	36	なし	国内事業部	9年

2. KH Coder を用いた質的分析

- 総抽出語数 (12100)、そのうち使用語数 (3833)、文数(395)、段落数(127)
- 最頻語
子ども (112)、思う(77)、子どもの遊び場 (51)、来る(42)、先生(39)

共起ネットワーク (資料)

- 各グループの実際の言葉

① 01 薄緑のグループ

やっぱり子ども支援の関係者の人も、PFA を知っていることが強みになるんだと思いました。私たちセーブ・ザ・チルドレンとしても、医療関係者のみなさんと PFA を普及して、とても重要なものだという自信が持てました。

たぶん、子どもたちに話を聞いていると、ときどき聞き過ぎてしまうことがあるのですが、そう気づくことができるということはうちのスタッフ

の変化かなと思います。それも、子どものための PFA のなかで、先生方が「なぜ心理的デブリーフィングがいけないのか」ということを説明していただいたおかげだと思います。

PFA と出会ったことで、「うん、うん」と聞くだけで良かったと知ることができて、支援者の安心にも繋がったと思います。

② 02 黄色のグループ

今のコロナウイルスの対応で、中国からの第 4 便に子どもたちが約 60 人乗っているということで、DMAT の現場で担当している先生から御連絡いただきました。「本当に何かできないんですかね」というお話を最初頂き、「おもちゃを配布するとかできないですかね」というお話になりました。セーブ・ザ・チルドレンが避難所の「子どもの遊び場」を開設するときに使っているおもちゃリストを共有させていただきました。

地元の子ども支援の団体が PFA 研修を実施したいというリクエストが来たので、G 先生と I 先生に来ていただいて、A と 3 人で研修を行いました。そのときに相談をしていた養護教諭の先生も来てくださって、熱心に研修の内容を聞いてくれて、研修後に後藤先生と直接をお話いただきました。そのときに、適切な相手に繋ぐことができて、その人が今後どうし対応したら良いのかの資源を提供できたのかなと思いました。

そうすると、「子どもの遊び場」の設置に関しては、おおよその流れが決まっています、運営のための原則があります。直近の災害に関しては、その中で何か課題になる子どもがいたとしても、他の専門機関に繋ぐことで対応できるようにやっています。

③ 03 紫のグループ

それが初めての小児周産期リエゾンとの連携事例で、その後、災害が起きて私たちが被災地に入ると、都道府県庁の保健医療調整本部にもお邪魔させていただき、私たちが現場で取ってきた情報

を共有して、先方が持っている大きな情報も教えていただいて、一緒に支援活動をすることもありました。

あと、私たちがすごく困ったのは、毎日違う保健師さんが来ることでした。毎日、別の人から同じことを聞かれて、同じことを答えていました。私たちがそんなに子どもの個人情報をお話せないなかで、困ってしまいました。

陸前高田の中学校では、医療関係者が毎日ミーティングしているのは見ていました。でも、私たちがそこに入ることはありませんでした。私たちは避難所の運営者とは繋がっていて、毎日「子どもの遊び場」を始める前と終わった後、気になることは全部共有していました。だけど、医療関係者のミーティングに入ることはありませんでした。

D. 考察

今回のインタビューにおける質的分析結果では、いくつかの注目すべき言葉が抽出された。

1、聞く；子どもたちの話を聞くと聞き過ぎてしまう場合もあるが、語るのではなくただ聞くことの大切さを実感している。災害時には、こちらから語らせるのではなく、ただ聞くことが急性期には大切であることの実例である。聞くという言葉を支点として抽出されている言葉として話がある。聞くことに付随した言葉として話す抽出されており話を、させるのではなく聞くことが重要であることの現れである。次に PFA という言葉が抽出されている。PFA は心理的応急処置（Psychological First Aid）のことで、危機的な出来事に見舞われて、苦しんでいる人の心理的回復を支えるための、人道的、支持的、かつ実際の役に立つ様々な支援をまとめたものである。災害直後のストレスによる非特異的な不安、抑うつ、不眠などの症状は時間とともに

に自然と回復していく。そのため、被災者が自然な回復力を取り戻せるよう、こころのケアをむやみに押しつけないように支援するのが PFA の基本となる。一方 PFA とは対極の存在であるのが、心理的デブリーフィングがある。心理的デブリーフィングは災害直後の数日から数週間後に行われる急性期介入のひとつの方法で、ストレス反応の悪化と PTSD を予防するためであると主張され、各国に広められたが、PTSD への予防効果は現在では否定されており、かえって悪化する場合も報告されている。トラウマ的体験を話すように促し、トラウマ対処の心理教育を行うものだが、有害な刺激を与え、自然の回復過程を阻害する可能性がある。特にこの方法を十分理解できない小児期には害が大きくなる可能性がある。しかしながら本方法を推奨していると見受けられる団体などが未だに存在するのも現実である。

2、子どもの遊び場；災害時に子どもにとって遊び場が提供されるかどうかは重要であり、今回のインタビューにおいても基礎となる言葉として抽出されている。子どものこころの問題についても、この遊び場においての子どもの言動が、それぞれが問題を抱えているかどうかを見分ける重要な内容となる。またここでの大人の対応が、子どものこころの問題に対する予防、治療となりうる。

3、関係；ここでの関係という言葉は医療機関とそれ以外の団体、医療専門スタッフ（医師など）とそれ以外という組織同士の関係と人と人との関係の両方を指している。実際のインタビューからは、その両方において、医療機関との連携が十分ではないことが示唆された。2で示した子どもの遊び場

という場所が子どものこころの問題において重要な場所であるが、その運営などに医療機関が十分に連携できていないとすれば、改善する必要がある。現場での情報が、専門家を含め共有し、一体となって子どもに拘わっていく必要がある。また、災害時の子どものこころの問題が生じた場合すべてに対して専門的な治療が必要ではないが、一部には専門家に対応する必要がある場合も存在する、それをトリアージするのが今回のインタビューを行った団体などであるが、そのスタッフが、トリアージの技術を習得していくのも大切であるが、迷った場合になどにすぐに相談できる専門家が存在するかどうかも大切である。普段から連携が取れる専門医療機関が必要であることはいうまでもない。

以上今回のインタビューのキーワードの一部から検討したが、今後他団体へのインタビューを予定しており、それらの結果を集約してマニュアル作成に結び付けたい

E. 結論

災害時の子どものこころのケアについてもマニュアル作成にあたり、災害時に子どもの遊び場を設置している NGO 団体から、よくみられる子どもの心身の反応および子ども医療との連携について情報収集を行った。その結果、災害時のこころのケアにおいて PFA が大切であることが抽出された。その一方で有害と考えられている心理的デブリーフィングが行われている現状がある。また連携においては医療とその他の団体との連携がまだ十分でないことも抽出された。インタビューは他の団体についても年度内に予定していたが、大災害が繰り返し起こっているため、年度内での実施が不可能であった。よって次年度にインタビューを行いそ

の結果を集約して、マニュアルを作成する。マニュアルは災害時の PFA の考え方を導入し、また心理的デブリーフィングのようなしてはいけないことを盛り込み、また連携の在り方についても具体的な指針を示したものとしたい。

(参考文献)

1. World Health Organization. War Trauma Foundation and World Vision International 2011 Psychological first aid Guide for field workers.
2. Clark PR, Polivka B, Zwart M, Sanders R. Pediatric Emergency Department Staff Preferences for a Critical Incident Stress Debriefing J Emerg Nurs. 2019;45(4):403-410.
3. Tarquinio C, Rotonda C, Houllé WA, et al. Early psychological preventive intervention for workplace violence: A randomized controlled explorative and comparative study between EMDR-Recent Event and Critical Incident Stress Debriefing. Issues Ment Health Nurs. 2016;37(11):787-799.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

資料 共起ネットワーク

